

平成 29 年度第 2 回一宮市子ども読書活動推進懇話会会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成 30 年 2 月 27 日（火）午前 10 時～正午
- 2 開催場所 中央図書館 7 階 講座室
- 3 出席者 懇話会委員：7 名（欠席者 3 名）
事務局：8 名
- 4 議 題
 - （1）子ども読書活動推進関連事業における取り組み状況について
 - （2）その他
- 5 開 会 （事務局が開会を宣言）
「子ども読書のまち宣言」唱和
図書館長挨拶
懇話会会長挨拶
- 6 会議録（要旨）

議事進行は、会長が務めた。

（会長） 議題 1 について説明をお願いします。

（事務局） 議題 1 子ども読書活動推進関連事業における取り組み状況についての説明

（委員） 新学習指導要領は、小学校は 32 年度、中学校は 33 年度、高校は 34 年度から全面実施ですが、主体的で、対話的で、深い学びをめざしていくために、図書館は読書の場所を提供するだけでなく、情報が入手できる場所として大事な役割を果たしていくということを新たに認識しました。

（会長） 図書館サイドとして調べ学習に対応した処置をお話ししていただけますか。

（事務局） 中央で調べ学習講座を実施しています。

（会長） 先生にお聞きするんですが、学校からバスや徒歩で図書館へ行きますよね。

（委員） 博物館やプラネタリウムは教育委員会からバスを出してもらえます。図書館に近い学校は見学に行けませんが、千秋は江南や岩倉に近いため遠足としてやっています。

（事務局） 子ども文化広場図書館では、貴船や富士小学校など 3、4 校の 2 年生や 4 年生が来館し、本の貸出もしています。尾西は三条小学校が毎年来館しますが、他の小学校は中央へ行っているようです。尾西児童図書館は朝日東、西小学校の 2 校が来館します。木曽川図書館は、旧木曽川町 3 校の小学校が毎年来館し職員の説明の後に見学していきます。

（会長） 尾西児童図書館は、児童館と併設になっていますが連携はどうなっていますか。

（事務局） おはなし会の時間になると子どもたちと一緒に児童館の先生方も参加していただく等のご協力はしていただいています。

（会長） 図書館見学では、勝手に見ていってくださいなのか、それとも館内を案内されるのか。

（事務局） 子ども文化広場図書館では、最初に紙芝居で図書館の使い方を説明後に案内します。

（会長） せっかく学校からお越しいただいているので、取り組み状況の中に載せていただきたいし、そういう機会を通して調べ学習の事業に繋げていくと一番いいと思います。中央はどうですか。

（事務局） 中央図書館は、本の並び方や図書館の使い方を説明してから、グループに分かれてスタッフが館内を順番に案内して O P A C の使い方や手続きをしないで本を持ち出すと音が鳴るということを実演しています。希望があればおはなし会をしたり、本を 1 冊ずつ借りていく学校もあります。

- (会長) 学校サイドから実施されていない学校に報告していただくと、さらに輪が広がっていくと思います。司書や職員の方が子どもたちのサポートをしていると思ってよろしいですね。もともと図書館の役割の中で子どもたちに解答を教えるのではなく、導くという役割があるので、それが主体的で、対話的で、深い学びに繋がっていくと思います。
- (委員) 葉栗は遠いので中央図書館に見学に行ったという話は聞きません。行くかどうかは校長先生の裁量ですか。
- (委員) 千秋東は2年生の担任からも行かせたいという希望があって、費用も捻出して2年続けてきました。中央、子文と交互に行きたいと思います、
- (委員) 使い方を教えることも大事ですが、図書館にはサポートしてくれる人が必ずいて、自分が求めているものを得ることができる、そういうことが子どもたちにとって大事だと思います。子どもたちが地域の図書館を見学して図書館のすばらしさを知ったり、親しむきっかけになればいいと思います。
- (会長) ほたる号は学校に行っていますが、読み聞かせをやっていることが書いてありますが。
- (事務局) それは児童クラブです。学校は人数が多いため、貸出・返却するだけで精一杯で、読み聞かせをする余裕はありません。子どもたちは講堂に広げた本やほたる号の中から自由に選んでいます。こんな本が無いかと聞かれればご案内はしています。
- (会長) ほたる号を増やすことはもう無理ですか。
- (事務局) 今のところ13校ですが、これ以上増やすことは難しいです。
- (委員) 小学校の読み聞かせボランティアのネットワーク化の推進ですが、漠然としているので、交流のためのホームページ運営とか交流会の開催等を付け加えるといいと思います。家においてもスマートフォン等で交流しつつ、実際に会って交流ができるといいと思います。交流会も日程を決めて人を集めるとなると大変なので、例えば図書館の講座室を今日は交流会のためにオープンにしておくので来てください、そこに司書の方がいて、読み聞かせのための本を紹介したり、居合わせた人同士が交流するとか、そんなところから繋がっていけば、定期的な会議が出来上がっていくのではないかと思います。
- (会長) 会議室をオープンにしたり、ホームページに交流会のお知らせを載せることは可能ですか。
- (事務局) 可能です。フェイスブックか何かでできないかなと思っています。
- (会長) この中に追加するかどうかはお任せしますが、貴重な意見だと思います。
- (事務局) 小学校の読み聞かせボランティアで、まとまって何かをするということはありますか。
- (委員) 奥小の読み聞かせに登録している方は、30人ぐらいです。本の紹介が主ですが、学期に1回、勉強会を実施しています。
- (委員) 千秋東小学校もボランティアの方が15人ぐらいいます。毎月1回、読み聞かせをしています。時間がある方は読み聞かせ終了後に校長室で情報交換をしています。勉強会はありませんが、いろいろ工夫していただいています。
- (委員) 場だけ提供してもらえれば交流会やネットワーク化も自然発生的にならないかなと。
- (会長) 図書館開館100周年のときは、ボランティア間の連携がかなりあったように思いますが、今どうなってますか。
- (委員) 図書館子どもと本をつなぐボランティアグループが17あって、各図書館で活動していますが、現在の会員数は190名ほどで、年に3回図書館の部屋を借りて集まっています。
- (会長) そういう時に、学校のボランティアさんとか、図書館部会の先生方、職員も入っていただくと輪が広がりますが、そういうことは可能ですか。
- (事務局) 明日たまたま講演会がありますが、学校司書の方にもご案内をし、何名か出席していただ

きますので、図書館ボランティアの事業に学校司書やボランティアの方々を取り込むことはできると思います。

(委員) 総会後に講演会があり、日本のトップレベルの子どもの本に関わりのある方を講師に、私たちの学ぶ場とさせていただいています。定員にならないときは学校の読み聞かせのボランティアの方や学校司書の方に声をかけたりするときもあります。この10年ほど開催してきましたが、予算がばっさり削られるという話を聞きました。

(事務局) 予算については、減額ということになってしまいました。

(委員) 日本で大変お力のある方たちのお話を聞く機会が個人では難しく、予算が削られてしまうと、どういう形の講演会になるのか心配です。復活して、今のような形で継続できるようにお願いします。これから先も子どもと本を繋いで活動をしている人たちが共に学ぶ場として提供していただけたら大変ありがたいと思います。

(会長) そういう話があれば、早めに皆さんにお知らせください。会場は市民会館を借りることも可能ですよね。

(事務局) それは難しいと思います。予算的なものがありますので。

(会長) 厳しいのは分かっていますが、図書館ネットワーク交流会の中で講演会があるなら、学校図書館や学校司書、保育園の職員や児童館の方にもお声がけすれば、講演会が終わったあとに、交流する場が出来るような気がしますのでご一考を。折角、貴重な財源を使って著名な方をお呼びするなら、できるだけ多くの方にお聞きいただくのが筋だと思います。

(委員) ブックススタート事業の強化では、後のフォローアップについてもっと話し合えればと思います。

(会長) ブックススタートの体制はどのようになっていますか。

(事務局) ブックススタートは本を提供するだけではなくて、本を介在して、お父さん、お母さんと赤ちゃんが触れ合うということを目的にしているものです。中央図書館は職員と委託業務の担当職員と子ども文化広場図書館の臨時職員の3人体制で、尾西や木曽川は職員と臨時職員の2人体制です。ボランティアの方や主任児童委員の方にもご協力いただいています。

(会長) ブックススタートの強化ということで、フォローアップを追加することは簡単ですが、実際にどういう形でやっていくかは非常に難しい問題だと思います。

(委員) 4か月健診では、1対1で絵本の読み聞かせをしています。予算がなくてもやれることはあると思います。例えば3歳児検診のときにグループごとに図書館から持ってきた絵本の読み聞かせをしたり、お薦め本のリストを渡して、こういう絵本も図書館にあるよと情報発信をすることができると思います。

(会長) リストは図書館が作ってますよね。こういう意見が出ましたのでご承知置きください。

(委員) ブックススタートで配る1枚の紙に各図書館の行事が載っていますが、字が小さいので、もっと見やすくすると思います。

(会長) 次回印刷されるときに工夫していただくということをお願いします。学校の図書館部会の構成をお話いただけますか。

(委員) 図書館部会には図書館主任が入っています。研修会でお呼びした講師は、学校教育課の紹介で、司書さんと合同でやりました。

(会長) 図書館部会の先生方が集まる機会がありますか。

(委員) 校長、教頭の学校教育図書館部という役員会があります。

(会長) そういう会議があるときに、図書館部会の先生方と私たち委員や図書館サイドが話をする機会を設けていただければ輪が広がり、子ども読書活動の推進になっていくと思います。

これは図書館部会の先生方にもお伝えいただいて、学校と図書館が連携できるように事務局がちゃんと対応してくれますよね。

(事務局) 定期的な図書館部会の会合には、図書館担当の教員もおみえになりますか。

(委員) 図書館主任者会議を年3回開催します。

(事務局) そういったところに私たちが伺うということはできますか。

(委員) 45分間の会議では厳しいです。研修会でしたら、比較的ゆったりしていると思います。

(委員) 読書が浸透してきたかどうかの目に見えるデータがあるといいということが以前出たと思いますが、定期的にアンケートを採るということしかできないですかね。

(会長) 貸出したデータを分析するのは可能だと思うんです。

(事務局) 児童1人あたりの蔵書冊数、貸出冊数、こういったところで毎年数字を採っています。

(会長) どんな本がどれだけ貸し出されたかというデータはありますよね。

(事務局) 貸出や予約の多い本のランキングはホームページや年報にも掲載しています。

(会長) 次に議題2その他について、事務局何かありますか。

(事務局) 次回以降の懇話会の開催の仕方ですが、1回目は推進会議と合同で開催していますが、その際の質問にその場で答えられない場合があるので、その前に勉強会を開催し、そのときの質問等を合同会議で回答する方法もあるため、皆さんにお諮りしたいと思います。

(会長) この会を先に開催して、出た質問を事前に担当部局にお伝えいただいて、合同会議のときに回答をいただけるということですか。

(事務局) 質問の回答が中心になると思いますが。

(会長) 1回目の会議のときに、質問を目いっぱい出しておかないと、準備される方が気の毒です。その代わり合同会議のときは、正式なお答えをいただかないといけないということになります。

(事務局) それか、今回みたいに従来の方法かどちらかになると思います。

(委員) そのときお尋ねしたお答えがいろんな事情でできないときは、今まではそのままだったわけで、あの時点ではお答えできなかったことも委員の方々にお伝えいただくことも、大事かと思います。

(事務局) それも可能です。その場で答えが出なかったものについて、2回目のときに担当課の答えを集約してお伝えするという方法もあります。

(委員) たくさんの市の関係部局の方がおいでになって、私たちと会議をしたときに思い付きのようなことをお話しすることで、折角の機会がうまく生かしきれないということも残念なので、事前に学びあう場、担当課へのお尋ねができる会があってもいいかなと思いますが、それによって質問事項が制約されてしまってそれしかお答えできませんというのは残念に思います。そこでお答えできない質問については、後に委員のほうにお知らせいただくという機会が欲しいと思います。

(会長) 今のご意見も踏まえて担当部局の方と一回詰めていただけますか。当日は合同会議という形をとりますので、教育長さんや教育文化部長の意見も参考になるとと思いますので、整理いただきたいと思います。以上をもちまして本日の懇話会を終了させていただきます。長時間のご審議をいただきありがとうございますございました。